

開催報告

16 平和と公正を
すべての人に



2019ピースアクション in ヒロシマ

ヒロシマの心を次世代のあなたへ

～知って、感じて、動き出そう～



74年前のきのこ雲の下での出来事やその後の歴史、復興への歩みなど「ヒロシマ」だからこそ感じる被爆の実相を学ぶ場としてピースアクション in ヒロシマが開催されました。夕方には、東京都生協連主催「被爆者との交流」が開催され、被爆者の方から証言をお聴きし、「戦争や核兵器もない平和な世界」を求める願いに、世代を越えて共有する場となりました。

日程：2019年8月5日（月）

会場：広島県立総合体育館グリーンアリーナ

参加：8生協70名

（大人58名、高校生以下12名）

パルシステム東京17名、東都生協10名

東京南部生協2名、東京ほくと医療生協5名

東京保健生協18名、こくみん共済coop12名

広島医療生協3名、東京都生協連3名

主催：東京都生協連

虹のひろば

ステージでは様々な形で平和への思いが表現されました。フィナーレには田上長崎市長がサプライズゲストで登場し、松井広島市長とともに虹のひろば合唱団の合唱に参加しました。みんなのひろばでは、コープみらいを始め、全国の生協のブース、広島市立基町高校による「原爆の絵」の展示、広島県立福山工業高校によるVR体験などがありました。



千田小学校合唱隊
被爆樹木で作られたパン
フルートと合唱



藤森俊希さんによる
被爆証言と核兵器廃
絶について



松井広島市長、田上長崎市長も
参加しての虹のひろば合唱団
による合唱



参加生協・見学の様子



被爆者との交流 ～被爆証言をお聴きする集い～ & 生協交流 大会議室にて



広島医療生協
広島共立病院相談室
相談員 寺尾さん

広島医療生協「原爆被害者の会」植松由紀子さんと綿崎直子さんのお二人からお話をお聴きしました。進行は、広島医療生協の寺尾花菜さんに協力していただきました。被爆者の平均年齢は82才を超えています。お二人のお話を傾聴し、後世に語り継いでいくために私たちに何ができるのかをあらためて考える機会となり、いっそう平和への想いを強くしました。

自宅の縁側で弟(4歳)と遊んでいるとピカッと物凄い光と爆風に襲われ、一瞬のうちにゴザがめくれ上がり二人を包み建具と共に裏の畑に吹き飛ばされた。おかげでケガは免れた。高台には近所の人が集まりきのこ雲が広がるのを見た。祖母は玄関の硝子戸が背中に刺さり皆で背中のガラスを取って手当てをした。近所のお兄さんは、大火傷しすりおろしたキュウリで背中を冷やしていた。何もなくなり畑にゴザを敷いて蚊帳をつり何日も野宿した。父は戦死、軍服の写真しかない。母が大泣きした姿をみた。なぜ手紙をみて泣いていたのか当時はわからなかった。当時のことを話すことで少しでも役に立つのではと話をしている。みんな元気で平和な世の中が続いてほしい。



植松さん 当時5歳
爆心地から4.1 km



綿崎さん 当時10歳
爆心地から1.6km

登校の準備中に大きく真っ白い光が目飛び込んできて、今度はゴーと物凄い音がして、気がつくとも気が失い家の下敷きになっていた。父の仕事机で隙間ができて助かった。当時男の人は少なかったが、母はつるはしを持った男の人を連れて来てくれて助け出された。1歳半の弟は真っ黒な顔で頭から血を流し家具の隙間から這い出してきた。逃げるとき火の手が上がり、皮膚の垂れた人が歩いていた。翌日父が学校へ早く登校し被爆し大火傷した妹を見つけた。病院には大勢の人で治療してもらえなかった。終戦を迎え病気で寝ている妹に食べ物一つなく、リヤカーを借りてきて遠い江波へ行った。近所の人には私たちに何も無いのに気づいてかぼちゃを一つ二つ置いて下さり、命を繋いだ。妹はある日家族に「みんな仲良くしてね」と言葉を残し亡くなってしまった。原爆によって運命を変えられてしまった。核廃絶、世界中の戦争がなくなるよう語り部を続けています。



参加者アンケートより

- 本で読むよりも、テレビや資料で見るよりも何倍も心に感じる苦しみや悲しみを痛感しました。実際に聞くことができなかつたら、もと深く考えることは絶対にできなかつた。(10代)
- お二人の体験されたような出来事を、次の世代に決して味わせることのないよう、私もできることを模索していこうと決意を新たにしました。(30代)
- 直接体験をお伺いするという事は、展示や碑を見ることより、ひしひしと身に伝わってきました。聞いた私たちも他の方々へ伝えていきたいと思ひます。(40代)
- つらい体験を話すことは大変なことだと思ひます。何気ない生活がどんなに平和かを感じました。(40代)

平和記念式典(8/6) 平和記念公園にて

あいにくの雨模様の中、平和記念式典に参列しました。犠牲者を悼む祈りを捧げ、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を参列者とともに願ひました。

